

こんげつ いんせき はくへん 今月の隕石薄片

なまえ
名前

Y86032

しゅるい
種類

つきいんせき
月隕石
しゃちょうがんしつかくれきがん
斜長岩質角礫岩

み ばしょ
見つけた場所

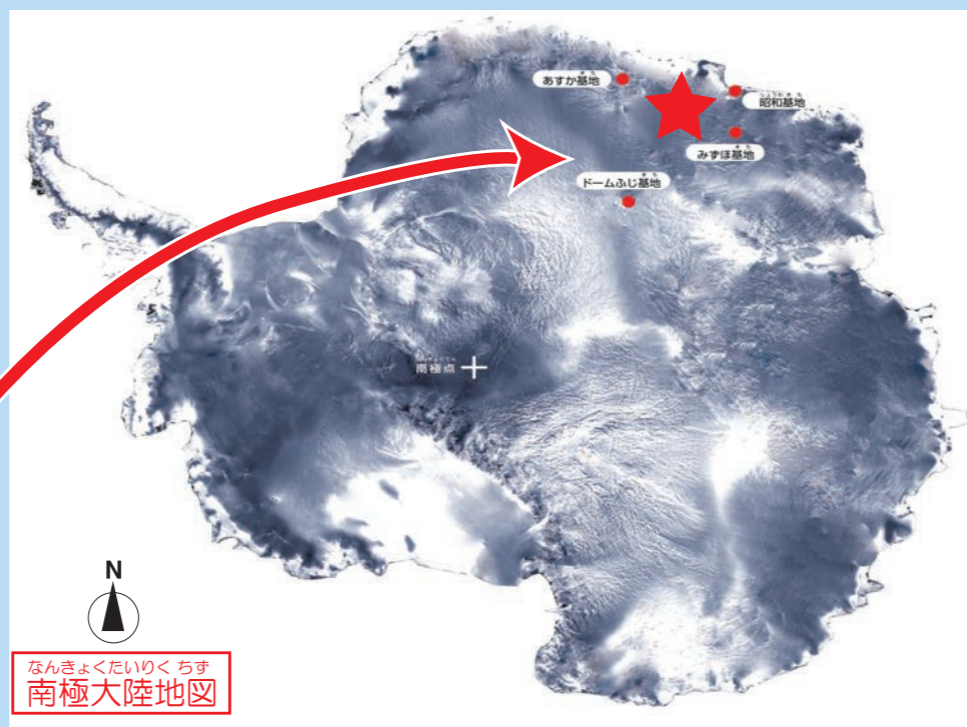
さんみやく
やまと山脈

ふく おも こうぶつ
含まれている主な鉱物

きせき しゃちょうせき
輝石、斜長石

とくちょう
特徴

ほか てんたい
他の天体がぶつかって、ほ お
掘り起こされて、かくれきじょう
角礫状になっています。
ふく げんそ そせい つき うらがわ きげん かんが
含まれる元素組成から、月の裏側が起源だと考えられています。

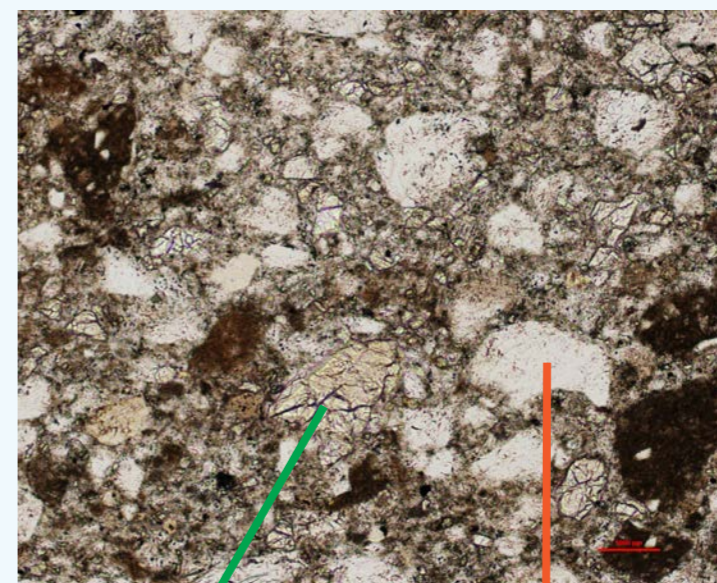


なんきょくたいりくちす
南極大陸地図

がんせき いんせき
岩石や隕石は、すり減らして薄くすると、光が通るようになります。これをガラスに貼ったものを「薄片」といいます。
岩石も隕石も、いろんな種類の鉱物の粒からできていますが、種類によって光の通り方がちがいます。
へんこうけんびきょう み いちまい
偏光顕微鏡で見ると、一枚の薄片から、鉱物の種類や結晶の構造など、たくさんのことを知ることができるのです。

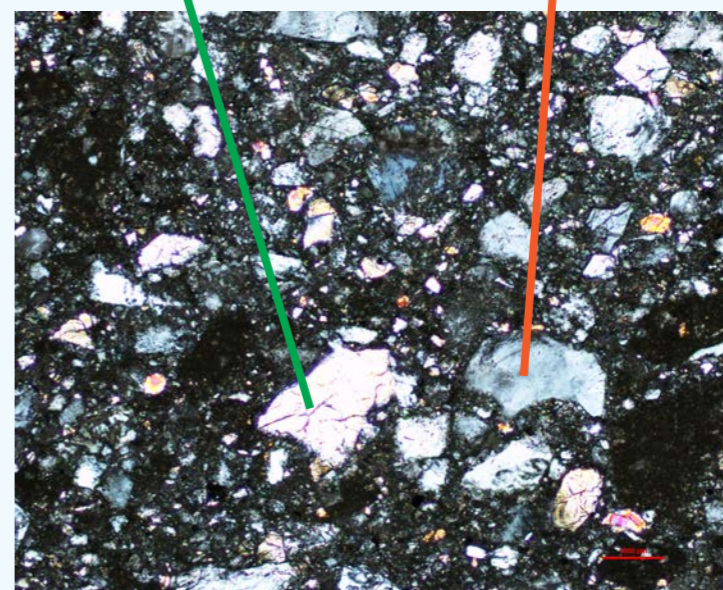


かんさつ
観察のポイント



偏光板が1枚のとき

色が
変わります



偏光板が2枚のとき

へんこうけんびきょう み はくへん ようす
「偏光顕微鏡」で見た、薄片の様子です。
偏光顕微鏡では、1枚または2枚の偏光板を通した薄片で、鉱物の種類や結晶の特徴を観察します。
偏光板はサングラス等にも利用されており、様々な方向に進む光の中から、一定方向に進む光だけを通すフィルターの役目をします。